

平成28年10月29日  
福井県柔道連盟理事長 榮 修一

**福井国体に向けた大会視察**  
**～ 希望郷いわて国体（柔道競技）～**

**1 視察日時**

平成28年10月7日（金）午後1時00分ころから  
平成28年10月10日（月）午後4時30分ころまで

**2 視察場所**

- (1) 会議場所  
「久慈市文化会館アーバンホール 小ホール」 久慈市川崎町 17-1
- (2) 大会会場  
「久慈市民体育館」 和歌山市手平 2-1-1
- (3) 計量  
「久慈市立中央公民館」 ※大会会場横
- (4) 練習会場  
「久慈市民体育館 2階サブアリーナ」  
「久慈市第二体育館」  
「久慈市立三船十段記念館柔道場」

**3 視察員**

榮 修一（県柔連 理事長）  
立平幸太郎（県柔連 評議員） 瀧波龍一郎（県柔連 常任理事）  
野尻 康行（県柔連 常任理事） 清水 範男（県柔連）

**4 視察項目**

- (1) 会議等（審判講習会・審判会議・監督会議・レセプション）
- (2) 競技運営・競技進行
- (3) 式典関係（開始式・表彰・閉会式）
- (4) 施設関係（会場レイアウト・設備・競技用具整備状況・練習会場・各控え室  
ミシン室・ドーピング室）（役員、選手、一般人の動線・入場制限）
- (5) 人員関係（競技役員・審判関係・補助員等の人数：役割、任務分担、配置状況）
- (6) その他（来賓状況・計量関係・救護・コンディショニングルーム・公開演技  
久慈市との連携・全柔連との連携・お成り等）

**5 視察内容**

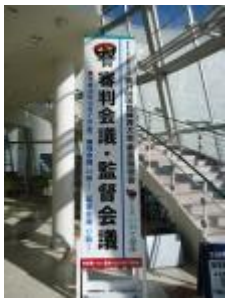
- (1) 会議等  
ア 審判講習会  
資料「H28年度Aライセンス審判員講習会」  
・受付と集計作業は久慈市柔道協会が、修了証は全柔連大会事業課が担当

- ・会場の手配が必要である。会場の規模は、概ね130席
- ・椅子（階段）席で対応（福井としてはアオッサのホールが使えないか）
- ・スクリーンとプロジェクターを手配

#### イ 審判会議

左端・司会者席。その横に、総務委員長・実行委員長・記録委員長・久慈市実行委員長  
および各係席。右側に審判委員長および審判委員席。

- ・オリンピックを例に審判の反省点を指摘。
- ・ブリッジは片足でも付いたら一本。
- ・上半身をよく見る（直角に着いたら有効）。
- ・二、三回切ったら指導。
- ・指導は、1、2、指導。
- ・首抜きか片袖かの見極めを。
- ・ペンディングポジション（一方的に押さえて指導を求める行為→指導）。
- ・柔道着をわざと脱ぐ（指導）。
- ・両足場外、直ちに指導。
- ・裾などを使っての絞め技→反則。
- ・ベアハッグは相手が道着を掴んでいる場合は合法。
- ・片三角→危険、すぐ「待て」。
- ・両膝が着くは寝姿勢、流れがあったら取られる。
- ・試合後の場内での嘔吐、少々なら見逃す。
- ・巴投げ後の草刈りOK。
- ・反則者が投げられたり押さえられたら様子を見る→ダブルパンチにならないよう。
- ・ビデオは一ヶ所だけ。確認の会議は優先。



会場入り口看板



審判会議受付



審判講習会、審判会議会場

#### ウ 審判打ち合わせ

- ・二日目・三日目、8時から。前日の審判について審判委員より反省点を指摘。
- ・代表戦（3分、最初からゴールデンスコア）は旗判定になる可能性があるので最初からしっかり見ること。
- ・両者指導が多かった。よく見極めてどちらか一方を指導にして動きを作るように。
- ・副審のゼスチャーをはっきり（場内外など）。意見があれば立つ。
- ・終了前8秒で消極的指導は死刑宣告。
- ・ブロック、片手は早めに指導を。

- ・寝技の見極め位置は頭の方から。
- ・手首を取って巻き込む→反則。
- ・寝技、関節がもうじき決まりそうな時には「待て」をかけない。
- ・首抜きを誘導するケースが見られる。しっかり見極めること。
- ・後半反則をとるのが早まってくる。公平に。
- ・礼法。審判3人が動作を一緒に。
- ・懐から物が落ちた。すぐに返したが、審判3人で協議してから。
- ・片手だけで技を掛けたり、両手をすぐ離している。反則を適切にとって試合を進める。



#### エ 監督会議

- ・監督47名、視察員等約20名（内本県5名）  
資料「監督会議」「選手変更一覧」  
計量結果と競技日程を岩手県柔連 細工藤総務部長が報告

#### オ レセプション（費用は県柔連）

- ・113名出席 8人席×13、9人席×1  
岩手県受付者：市長（副市長）、市教育長、市議会正副議長 5名  
県柔連会長、顧問、参与、副会長、専務理事、理事、評議員 21名  
県外受付者：全柔連役員、代議員、審判委員、審判員等 87名
- ・費用は県柔連持ち
- ・宿泊ホテルでの開催のため送迎はなし
- ・役員への記念品（めのうのボールペン）宿泊の部屋に置いてあった。
- ・全柔連対象に二次会（費用は県柔連持ち）



### (2) 競技運営・競技進行

#### ア 全体

- ・審判委員（ジュリー）各会場2名。  
競技委員長の下に、各試合場（3試合場）試合場主任1名、時計係3名、記録係1名、決まり技係2名、掲示係2名、選手係3名。

救護係は、主任の下に、9名の医師と柔道整復師2名ずつ第一・二試合場と第二・三試合場の間の二ヶ所に配置。

#### イ 進行係

- ・主任1名、競技役員3名
- ・試合会場主任からインカムによる連絡を受ける（試合開始・終了・代表決定戦選手）
- ・放送係がアナウンスする原稿の作成
- ・大会開催前や式典中のBGMの再生・停止を行う。
- ・最初の試合、準決勝、決勝・3位決定戦それぞれの開始を揃えて始める。
- ・審判員3名、選手が揃ったら紹介放送（場外に揃った時と、場内に揃った時と両方あった。どちらかに揃えるべきだった）。
- ・試合ごとに、各試合場から補助員が対戦記録用紙を会場記録係（試合場）のもとへ届ける。記録係（確認者）、試合場主任、記録係（入力者）が署名して次々と渡す。試合場裏の記録係のもとに送られ印刷されて、試合ごとに記録ロッカーに入れられる（「対戦記録用紙」参照）。それを皆が取り出すことができる。

#### ウ 試合場主任

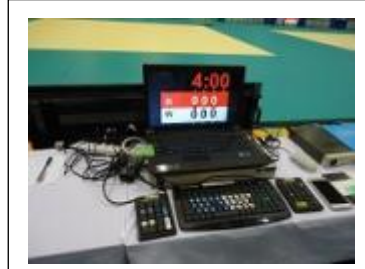
- ・主任3名
- ・代表戦の決定
- ・試合の開始と終了を全体にインカムで連絡
- ・試合場主任は試合記録用紙の確認をしサインをする
- ・代表戦になったらインカムで全体に連絡する
- ・代表戦の決定
- ・各係や試合場係内の業務進行状況を把握し試合運営に努める
- ・準備物  
審判割り当て表、筆記用具、インカム、抽選棒

#### エ 時計係

- ・競技役員9名＋補助員6名
- ・試合時間の計測
- ・デジタルタイマーの操作、得点表示
- ・試合時間記入用紙を記入し記録係に渡す
- ・記録係との連携を密にしておく
- ・試合時間記入用紙は試合場ごとに色分け（白、ピンク、水色）されている
- ・補助員の役割分担を決めておく
- ・試合時間用紙にはタイマーに表示されている試合の残り時間を記入する。
- ・準備物  
試合時間記入用紙、タイマー、得点掲示、ストップウォッチ
- ・緊急時の際は、ストップウォッチ、ベル、合図旗、卓上得点板で対応する
- ・準備物  
ストップウォッチ、試合時間記入用紙、プログラム、ベル、卓上得点板、合図旗、インカム



タイマー得点表示



タイマー得点表示操作



緊急用計時器具



緊急用得点表示板

#### オ 決まり技係

- ・競技役員 6 名 + 補助員 3 名
- ・決まり技記入用紙は、試合場ごとに、白、ピンク、水色と色分け
- ・決まり技を技記入用紙に記入し記録係に渡す
- ・きまり技係は 2 名で協議し決まり技を決定
- ・「技名称一覧表」で技を確認する
- ・準備物  
プログラム、決まり技記入用紙、技名称一表、インカム



#### カ 記録係

- ・競技役員 3 名 + 補助員 9 名
- ・試合記録用紙（手書き）の作成を補助員が行う。
- ・試合時間を時計係から確認し、決まり技記入用紙を回収し、試合記録用紙にボールペンで手書き作成する。
- ・最終的に何対何でどちらが勝ったかを確認し記入する。
- ・試合記録用紙の内容をパソコン入力（手書き入力者と確認をしながら）する。
- ・勝敗の内容とその判定記号、最終結果の記入を確認
- ・手書きの試合記録用紙を確認後、各試合場主任がサインをし、決まり技記入用紙と合わせて競技補助員が記録係競技役員に持参する。
- ・記録係競技役員は試合記録用紙（手書き）とパソコンデータを確認し、サインをする。そ

の後競技補助員が記録本部まで試合記録用紙（手書き）を提出する。

- ・パソコンデータについては、各会場で入力するが、記録係や記録本部で共有されており、どこからでもデータの閲覧や訂正ができる。
- ・準備物  
プログラム、審判割り当て表、パソコン、試合記録用紙、クリアファイル、インカム、選手変更一覧、筆記用具 技名称一覧表

#### キ 記録本部係

- ・主任 1 名 + 競技役員 8 名
- ・公式記録の作成管理
- ・対戦相手決定後、試合記録用紙印刷・配布の指示
- ・競技補助員が試合記録用紙（手書き）を提出したら、パソコンから該当する試合結果を印刷し、再度チェックをする。
- ・勝ち上がりトーナメント表の表示、確認
- ・トーナメント表の勝ち上りを定期的に大掲示係速報係へ渡す。記録本部内に掲示
- ・入賞チームを式典係へ連絡
- ・賞状作成の協力と入賞チームの選手名を確認する。
- ・対戦結果用紙は県送信員と審判員係主任に配布する。
- ・準備物

パソコン、プリンタ、インカム、筆記用具、トレー、トーナメント表、ホワイトボード、



#### ク 掲示係

- ・競技役員 6 名 + 補助員 1 2 名
- ・「先程の試合」、「只今の試合」、「次の試合」のプレート及び勝負内容を掲示
- ・対戦中の選手名の間には「対戦中」プレートを掲示
- ・代表戦の場合は選手決定後に「代表戦」プレートを掲示
- ・選手名は姓のみ明記するが、同姓の場合は名の 1 文字を加える
- ・試合内容が不明瞭な際はインカムで当該の試合場係主任に確認
- ・試合結果は次の試合の中堅戦が始まるまで掲示しておく
- ・決勝戦の結果は写真を撮る関係で表彰式終了まで掲示する。
- ・準備物

選手名プレート、審判名プレート、対戦中プレート、審判割り当て表、プログラム、勝敗マーク、代表戦プレート、インカム、チームプレート、インカム、選手変更一覧表、筆記用具



#### ケ 選手係

- ・ 競技役員 9 名 + 補助員 9 名
- ・ 直前の試合までに次回選手を誘導する。
- ・ 審判員立会いのもと、柔道着コントロールを実施する。
- ・ 選手変更の有無を総務係に確認する
- ・ ゼッケンで選手名を確認
- ・ IDカードを預かり受領ボックスで管理し、赤白帯と交換
- ・ 選手控席へ誘導
- ・ 選手や審判員が畳に上がるタイミングを指示する。特に第一試合、準決、決勝、3位決定は注意する。
- ・ 準備物  
柔道衣測定器、IDカードボックス、インカム、赤白帯、選手名簿



次試合選手席



選手控え席全体



選手係席



次試合審判席



選手控え席全体

コ 会場（練習会場）係

- ・会場係主任 1名＋競技役員 2名（5名）、補助員 2名  
＜試合場＞
  - ・補助員 6名
  - ・副審用椅子の出し入れ、及び演武前後の椅子の出し入れ。
  - ・足ふきマット、ティッシュ、雑巾などの準備。
  - ・畳に血液が付着した際は備え付けのゴム手袋を着用し、消毒スプレーとティッシュで拭き取る。
  - ・大会終了後に会場及び練習会場の復元撤去。
  - ・試合場係掲示班、審判係への協力
- （練習会場）
- ・練習会場の保守点検並びに整理を行い事故防止に努める。
  - ・使用後のテーピングやティッシュ等については持って帰るように指示する。
  - ・計量器を設置する。
  - ・練習会場利用者ノートの管理

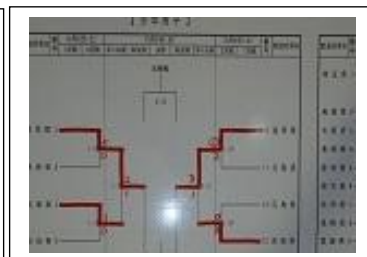


サ 放送係

- ・主任 1名＋競技役員 3名
- ・プロのアナウンスを 2名頼んだ。
- ・大会全般において、放送原稿や総務部・進行係の指示でアナウンスを行う。

シ 大掲示（速報と兼務）

- ・トーナメントボードの表示を行う
- ・1階試合会場入り口と、2階観客席入口に 2箇所
- ・試合記録用紙（記録本部係から送られる）により、勝ち上がったチームに赤ビニールテープで表示し得点を記入する。
- ・準備物  
はさみ、プログラム、クリアファイル、雑巾、赤ビニールテープ、インカム、筆記用具
- ・試合場にモニター 3台





#### ス 速報係

- ・主任1名＋競技役員1名＋補助員8名（記録本部係と兼務）
- ・試合結果を印刷50部
- ・試合記録用紙とトーナメント表をコピーし、速報ボックス、ひな壇用ファイルで管理。
- ・速報ボックスには試合会場ごと、第一試合から順に50枚コピーして入れる
- ・ひな壇用速報ファイルはひな壇左右の上段の机の上に1冊ずつ置く。最初のページにトーナメント表を綴じ込む。とじ込みは回戦ごとでよい。
- ・試合記録用紙の保管
- ・速報ボックスの設置管理
- ・印刷が終了し投入した試合記録用紙は、クリアブックに保管する。
- ・準備物  
保管トレイ、筆記用具、印刷用紙、クリアブック、インカム、机2脚、プログラム



#### セ 報道係

- ・主任1名＋競技役員2名
- ・報道関係者との窓口
- ・報道員席には（視察委員、記者、カメラマン以外入れない）
- ・インタビューアエリアへ選手や報道関係者を案内誘導
- ・フラッシュの使用禁止
- ・記者からの注文や意見があった際は、総務係へ連絡後に回答する
- ・準備物  
プログラム、試合進行表

#### ソ 総合成績計算委員長+計算係

- ・主任1名＋委員長1名＋計算委員2名＋競技役員2名
- ・各試合結果をもとに総合成績一欄表、種別順位表、総合順位表を作成
- ・各種別1位～5位が確定したら記録本部係と確認する
- ・準備物  
インカム、パソコン、プリンタ、印刷用紙、筆記用具

## タ 計量係

- ・男子計量（主任1名＋競技役員15名）
- ・女子計量（主任1名＋競技役員10名）
- ・男子計量器 5台 女子計量器 3台
- ・非公式計量と公式計量の計量器は同器とする。
- ・各階級の名簿
- ・体重の詳細は記入せず、計量をパスしたかどうか合不のみ記入する。
- ・ブース内には脱いだ衣類を置けるかごがある
- ・男子：主任1名＋受付誘導4名＋先鋒2名＋次鋒2名＋中堅2名＋副将2名＋大将2名
- ・女子：主任1名＋受付誘導4名＋先鋒2名＋中堅2名＋大将2名
- ・IDカード確認
- ・計量は係1名が数値を読み上げ誘導、1名が記入
- ・数値の計測は少数点第1位までとし、第2位以下は切り捨て、テープを貼る
- ・不合格の場合は各主任の立ち会い下、本人確認し選手の署名をもらう
- ・服装は男女とも下着のみ、全裸も可能。  
計量係主任は、計量用紙結果を記入確認後、計量終了を総務主任に連絡する。
- ・不合格者が出た場合、詳細を携帯電話で総務部長に連絡
- ・準備物  
計量用選手名簿、筆記用具、計量器、受付用机、携帯電話、コンセント確認、机、椅子、衝立、拡声器
- ・公式計量10分前に受付。
- ・公式計量は決められた時間内に1回のみ。
- ・計量は北海道から都道府県順に計量を行う。
- ・会場入り口で受け付けし入場、受付に使用マニュアル及びQ&A冊子が置いてある。（柔道関係者）
- ・本県の場合は、5人そろった県から測定してはどうか



選手受付(左)計量受付(右)



選手受付



計量ブース内



計量ブース5カ所



計量の様子





計量受付名簿・計量順



計量会場入り口



計量会場看板

### (3) 式典関係

#### ア オープニングセレモニー

- ・国旗に注目、「一同礼」（国歌斉唱なし）。
- ・トロフィー返還（男女総合成績一位埼玉県から）。
- ・競技会会長あいさつ。
- ・競技開始宣言（大会副委員長）。



#### イ 表彰

- ・一日目（8日）公開演技後、女子表彰式。少年女子、成年女子、女子総合の順に、成績発表後同時に表彰状を渡す（各第1位には「琥珀の盾」を渡す）。
- ・二日目（9日）公開演技後、少年男子表彰。
- ・三日目（10日）公開演技後、青年男子、総合表彰。



#### ウ 筆耕

- ・表彰状作成は、成績結果作成・印刷ブースと並んで、大会場裏手にある。成績結果が出るとすぐに作成・印刷する（別紙参照）。出来た表彰状はブースの外の長机に並べられたお盆の上に乗せる。表彰式になったら補助員が持って行く。

#### エ （公開演技）形披露

- ・一日目（8日）柔の形（岩手県柔道連盟、女性2名）。
- ・二日目（9日）投の形（久慈市スポーツ少年団、7組14名）。
- ・三日目（10日）古式の形（岩手県柔道連盟、男性2名）。



#### オ 式典準備（係員数、補助員数：集合、指揮状況）

- ・主任の下に、表彰11名、整列8名。
- ・式典係に補助員30名配置。
- ・一日目（8日）表彰式補助員（プラカード持ち）大会プラカード（2名）、種目（1名）、少年女子、成年女子、総合各県（8名×3）。
- ・二日目（9日）少年男子表彰式補助員（プラカード持ち）大会プラカード（2名）、種目（1名）、各県（8名）。
- ・三日目（10日）成年男子、総合表彰式補助員（プラカード持ち）大会プラカード（2名）、種目（1名）、成年男子、総合各県（8名×2）。
- ・補助員の集合は整然と行われていた。各式典ごと、30分前には整列、係員はその都度指示を与えていた。

#### (4) 施設関係

##### ア ケアシステム

- ・全柔連と協議した結果、福井国体時も1方向からが良いとのこと。  
3人の審判員の補助的なものとして導入



ケアシステム装置



試合撮影用ビデオ

イ 会場設営

- ・業者委託先（セレスポ）：会場設営及びモニターへの映像配信を担当

ウ 練習会場（アップ会場）

- ・UP会場は三ヶ所。久慈市民体育館（大会場）二階サブアリーナ（266畳）。久慈市第二体育館（384畳）。三船十段記念館（188畳）。
- ・モニター（3台）と体重計を設置



二階サブアリーナ（久慈市民体育館）



仮計量用体重計



三船十段記念館



仮計量用体重計

エ 選手控室

- ・大会場のUP会場に隣接。使用された様子はなかった。下に畳やマット等が敷かれていないため寝転んで休むことが出来なかったからと思われる。選手達はUP会場に寝転んで休んでいた。

オ 更衣室

- ・更衣室は大会場のUP会場に隣接。

(5) 人員関係

ア 公式役員以外の宿泊予約

配宿センターに依頼するが、柔道競技関係の割当数は〇〇〇人  
(公式役員を優先したが、久慈市は宿泊所が少なく直前まで配宿が苦労した。)

イ 係員の手当（柔道関係者）

久慈市から支給

ウ 補助員の手当（高校生）

エ 受付業務 … 競技会場横駐車場の一角 「立て看板」2ヶ所設置

「競技関係・行政関係」… 役員・報道・視察など

担当役員（市柔連） 7名

6名（会期当日の実働者）

補助員（高校生） 8名



来賓・役員・視察受付



選手受付



役員・視察用パンフレット



オ 人員関係その他

- ・受付にて、IDカードを細かく分類すべき。（たとえば視察は後催県とその他の視察を色分けしたり）
- ・岩手県では食事はフリーで配っていたが、IDカードに“食事券”を入れて渡したほうが、いいのではないか。紛失した場合は自己責任でいいのでは。
- ・入場者数を把握されていなかった。入場者数を把握する必要があるのか
- ・非常事態の発生について  
非常時組織・緊急連絡体制の整備や、対応マニュアルを作成し備える。
  - ・トイレ設置（会場横に1箇所：3，4人用）
  - ・AED配置箇所について（）
  - ・車イス観客への対応について（エレベータを利用して2Fへ）  
1Fに障害者用トイレ。
  - ・“応援旗”掲揚不可
  - ・“雨天”時対策として、傘袋を用意。靴袋も用意

(6) その他

ア 久慈市との打ち合わせ等（久慈市柔道協会の人で久慈市役所勤務の人がいたのでスムーズ。）

上層部は頻繁に実施した。

任務確認のため、全体の打ち合わせ及び説明会は数回実施した。

イ 輸送状況

- ・ 役員、審判員は会場と宿舎とのシャトルバスで移動
- ※ 久慈市が対応

ウ 全柔連との打ち合わせ

主として、電話やメールを利用（頻繁にした）

エ お成り

- ・ 行政（県）が担当
- ・ 県柔連からは会長のみ山下氏が、お出迎えを担当したのみ。
- ・ 前日（土曜日）の競技終了後に、ロイヤルボックスを設置したのも行政である。
- ・ 瑤子女王のお成りがあった。いつ来るかはっきりしたことは当日まで不明。
- ・ 通路沿いを厳重な警備員が固めた。

オ 広告

県柔連独自に依頼して掲載（その分の印刷代は県柔連）

カ パンフ販売

販売していたパンフレットは、広告付きのもの。

10/8・・・160部 10/9・・・100部 10/10・・・24部

キ 審判員の懇親会 （なし）

ク 次回開催県等

- ・ 愛媛県柔道連盟理事長と宿泊所依頼

ケ 全柔連からの依頼

福井国体終了後に、マスターズを開催できないか検討してほしい。

コ 観客席

- ・ 観客席は2階の4方向に設置
- ・ 1方向に2名程度の係が監視し、観客の動向や質問等に対応していた。

サ ミシン室

- ・ 九桜社員のサービス。
- 利用者50名  
10/8 11名  
10/9 39名



シ 来賓控室、審判・役員控室



ス 喫煙室

- ・喫煙者は大会会場出口付近の喫煙スペース（隔離した小部屋）と体育館の外に設けられた喫煙ルームで喫煙をしていた。



セ 試合畳

- ・久慈市民体育館（試合場と練習会場）の畳は、体育館側が購入し、競技役員、補助員で畳を敷いた。一日がかりであった。畳は特殊な接着がしてありずれることは全くなかった。
- ・試合場の高さは昨年度と違い、畳の厚さ分あがっているだけで危険性はなかった。

ソ IDカード

- ・IDは色と名称により18種類に分類されていた。主に競技役員（来賓）のほかに、選手・監督用（ピンク：女子、緑：少年男子、青：成年男子）と後開催県視察団用（茶）をつけた人が試合場の出入りをしていた。
  - ・役員・来賓等（紺）
  - ・係員はオレンジと黄色のウエア
- ・入場制限は警備会社が請け負う。初日、係員配置が遅れて（7時からの配置予定が、手違いで9時からになった）会場内に関係者以外の人が多数入場していた。

タ 環境美化

- ・ゴミを入れる専用の段ボールのゴミ箱を各会場に設置





- チ 会場内外すべてに各県の応援旗が準備されていた。  
 ・岩手県下の小中学校が描いたものであった。

ツ 土産物テント



テ 振る舞い

- ・牡丹餅と胡桃餅（10/8）、めぶ汁（10/9）、じゃっば汁（10/10）



ト 審判

- ・審判は審判委員に指示をあおく場面が多く、試合が間延びしていた。  
 ・審判が協議した事案を観衆に説明した方が、納得できる(判定)と思う。  
 理解できない判定がありすぎであった。

ナ 視察員

- ・10/8（200人）、10/9（200人）、10/10（30人）

ニ 地元開催チーム

- ・成年女子チームはベスト8入賞できた。成年男子と少年は一回戦で負けていた。地元が勝たないと会場は盛り上がらなかった。

ヌ 選手弁当

- ・発砲スチロールに弁当を入れ保管運搬。4時以降は食べないようにとの注意事項が記載してある。

ネ モニター

- ・3台のカメラでそれぞれの試合会場を撮影しモニターで放送した。久慈市民体育館の練習会場や審判・役員控室、屋外の振る舞い用の休憩用テント内の3ヶ所に設置されていた。



外テント内モニター3台



役員・審判控室モニター3台

ノ 地元応援

- ・地元の中学生が応援に来た。各県のチームを担当を決めて応援していた。ただ、地元が早く負けてしまったので盛り上がりには欠けていた。他県の応援もしてくれていた。

ハ 救護について

・救護状況

各日程とも 6 人程度（試合場で鼻血などの軽い処置は含まない）

役員の体調不良、診断書の発行、切り傷の選手に対する病院紹介など

・人員

医師 2 名（会場 2 名）

看護師 4 名（会場 2 名・救護室 2 名）

・配置

1・2 試合場の間…医師・看護師 計 2 名

2・3 試合場の間…医師・看護師 計 2 名

救護室…看護師・役員 計 2 名



ヒ コンディショニングコーナーについて

・人員

10/8（土）… 1 5 名

10/9（日）… 1 4 名

10/10（月）… 2 8 名

・利用状況

各日程とも 2 0 名程度 処置内容はアイシング、テーピング、消毒など。

フ 競技用具について

- ・赤白の対戦標識紐については、岩手県はすべて L サイズで統一しており、大きな支障はなかったように見受けられる。

本県も、すべて L サイズで統一したい。

また、帯を入れる箱のような物を使用していた。既存の物で対応する。



- へ 予算対応・・・県としては国体のために使用する目的での購入は認めない。

今後も武道館で使うものであれば、検討する。

- ホ 抑え込みの計測中であることを示す青旗については、岩手県では緑旗になっていた。あくまでバックアップ用なので、どこまでルール上必要かどうかはわからないが、必要なら緑旗を購入する必要がある。



マ 代表戦抽選箱について、準備物リストに上がっていない。自作、またはレンタルで対応。

ミ 得点版も、バックアップ用。旧ルールのものを代用している。武道館の得点版をはずして、置いておくのでもいいのではないかと検討。



ム GS表示版

GS表示も、タイマー上に表示されるが、バックアップ用として表示するものと、タイマーの上に置いて表示するものがあった。どちらも自作した物で対応する。

メ ケアシステム

PC操作はジュリーで行っている。カメラ動作は高校生が行っている。常に、カメラで選手の動きを追わないといけないので、作業はたいへんであると思う。

北信越学連で借りることについて、PC操作が今回の国体で使用したPCと同様であれば良いが、違う場合はPC操作の補助をつける必要があるとのこと。

本県でも、国体までの県内大会で使って、操作やトラブルシューティングに対応しておく必要がある。

モ 柔道場

試合場は32面(8m×8m)。畳サイズは(1m×2m)。

試合場は小さく感じるが、周りを大きく取れるため、安全面のメリットある。

ヤ 開会式

- ・プラカード・・・片面しか表示していないため、観客席からは県名などが全く分からない。客席からもわかるように、両面表示にするとどうか。
- ・皇后杯・・・1つの順位に複数県が入るため、表彰者がどこに並べばいいか混乱が生じた。後ほど、整理したものを読み上げるといいのでは。成年・少年のどちらもいる場合は、指定すると分かりやすい。

ユ 市職員と打ち合わせ

- ・岩手県久慈市は単独開催のため、人員配置が多かったが、福井市は14競技開催のため、多くの人員を割けない。
- ・年々、デジタル機器の使用台数が多くなっている。電圧など、電力関係を把握しておく必要がある。PC、テレビモニター、ビデオカメラなど。武道館の場合、電源は大丈夫か確認する必要がある。
- ・計量は多種目競技場で行う。女子の計量は47都道府県で行われるため、たいへん混雑が予想される。県に順番をつけてコントロールしているが、県によって福井入りの予定があるので、各県に負担になるのでは。
- ・受付順・・・いつ計量するかは各県に任せる。
- ・ブロック別・・・東北、近畿などブロックに分けてコントロール
- ・IDコントロール・・・警備会社で行っている。